

優秀賞 国土交通省土地・水資源局水資源部長賞

命の泉「カワ」

鹿児島県 十島村立口之島中学校

二年 中 村 ま ち

皆既日食の年がやってきた。私の住むトカラ列島は日食ムードでいっぱいだ。ある日、テレビでトカラ皆既日食が取り上げられるというので、私はワクワクしてテレビをつけた。「今、悪石島では日食期間中の水不足が心配されています。」水がない？私の住む口之島では、水不足は問題になっていない。同じトカラ列島なのになぜ？

口之島に水があるのは、泉のおかげだ。山からの水がこんこんと湧くこの泉を、私たちは「カワ」と呼んでいる。カワは用途別に複数のマスに分けられている。ガジュマルの根元からあふれる水は、最初のマスへ流れ込む。ここは飲料水用だ。夏の暑い日、木漏れ日の反射する水をすくって一口飲むと、生き返った気がする。水は次のマスへ。ここでは、海から揚がったばかりの魚を冷やしたり、野菜を洗ったりする「冷蔵庫や台所」だ。水はさらに流れて最後のマスへ。ここは、「お風呂や洗濯機」だ。また子供たちの練習用プールとしても使われていた。ここで泳ぎをマスターすると、海で泳ぐことが許されたらしい。このカワは絶えることがないと言われている。でも、人々は水を用途別に繰り返し使い、大切にしてきたのだ。なんて素晴らしい考え方だろう！便利になった今でも見習うべき知恵だと思った。例えば、手を洗った水や米の研ぎ汁を花の水やりに使う。お風呂の水を洗濯に使う。また、歯磨きをする時は、こまめに水を止める。このように、「水は貴重だ。」と意識し、行動を起こすことが大切だ。そうして、先祖代々から伝わる水に対する思いを引き継いでいきたいと思った。

さらに、私は、カワを中心にこの島の歴史があったことに深い感動を覚えた。船が運んでくる生活物資を考えると、港の近くに集落がある方が便利な気がする。しかし、この島は、山手に集落が集まっている。それは、カワがあるからだ。つまり、船より水の方が生活に欠かせないし、「カワは命の泉」だと考えられたのだ。カワは、涼みながらおしゃべりを楽しむ場であり、子供たちが泳ぎを覚える場でもある。また、土の付いている野菜は、下手で土を洗い落としてから上手で他の野菜と一緒に洗うというように、みんなを思いやるルールもあった。カワが長い間築いてきた人と人との触れ合いを思ったとき、私は深く感銘を受けた。そして、このカワをみんなが守ってきてくださったことに感謝した。このカワのおかげで、今も私たちはおいしい水を飲むことができるし、島民との交流も続いている。

この感謝の思いをみんなに伝えたい・・・。
私たちは文化祭で、カワを題材にした劇を披露した。「早く水をくんでこんか〜」慌ててカワに風呂の水をくみに行く子供の様子。「お前たち、そんな泳ぎじゃあ、まだ海で泳げんぞ」カワをせきとめて、泳ぎの特訓をしている様子。そして、子供たちがカワに冷やしてある魚の目をおやつ代わりにつまみ食いしていた様子。島のおじいちゃんやおばあちゃんたちは大笑いし、また、昔を懐かしんで涙してくれた。

日食のニュースがきっかけで、この島の水に対する思いに改めて気付くことができた。私たちの先祖は、水を限りある資源ととらえ、大切に、しかも最大限に活かしてきた。今では水道を使うことが多いが、カワは「人々の心の拠り所」になっている。七月のトカラ皆既日食では、島外からたくさんの人々がこの島を訪れる。カワで涼み、おいしい水で何をうるおして欲しい。島の人々が集まる場所なので、いろいろな話が語られるに違いない。そして、水によって命が支えられてきていることや水に関する島の知恵や歴史を、日食の思い出とともに持ち帰ってもらいたいと思っている。